

2024
4.15

NEWS

CIT

千葉工業大学 入試広報部
CHIBA INSTITUTE OF TECHNOLOGY〒275-0016
千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号
TEL 047(478)0222
FAX 047(478)3344

[NO.683]

校章は、創立直後の昭和17年、公募によって制定され、平成4年、創立50周年に伴い、商標登録されました。新しいNEWS CITはスクールカラーの「紫紺」をベースに、さわやかなスカイブルーカラーでお届けします。



幕張メッセで挙行された令和6年度入学式(4月5日)

<https://www.it-chiba.ac.jp/>

日本の未来を担う2799人が集う 令和6年度入学式

桜が見頃を迎えた4月5日、令和6年度千葉工業大学入学式が幕張メッセ・イベントホール(千葉市美浜区)で行われました。

今年度の新生は工学部6学科871人、創造工学部3学科441人、先進工学部3学科406人、情報変革科学部3学科420人、未来変革科学部2学科235人と、大学院426人(修士課程5研究科414人、博士後期課程3研究科12人)の総勢2799人が晴れの門出に臨席。大学生活をスタートしました。

(関連記事 P2・3)

P2-3 [令和6年度入学式] 新入生インタビュー / 伊藤学長致辞 / 瀬戸熊理事長祝辞 / 在学生代表歓迎の辞 / 新入生代表宣誓 / 学長講演

P4-5 [研究成果・受賞] ちばぎんアイデア賞を受賞 / 情報処理学会で優秀発表賞を受賞 / 千葉県加工技術研究会で優秀講演賞を受賞 / 技術と社会・倫理(SITE)研究専門委員会学術奨励賞を受賞 / 情報処理学会にて学生奨励賞を受賞 / 西村美咲さんがダブル受賞 / fuRo保坂研究員にひまわりベンチャー育成基金 / 瀧野日出雄教授に功労賞 / 信川教授がアルツハイマー病の神経ネットワークにおける活動異常を明らかに

P6-8 [イベント] 超小型衛星「KASHIWA」が宇宙空間へ / fuRoが新たな電動モビリティを発表 / いちかわ芸術祭でCIT Brainsがデモンストレーション / 15クラブの活躍を表彰 祝勝・奨励会 / 春のオープンキャンパスに1619人来場 / 旭市と包括連携協定 / 八千代松陰中学校・高等学校と包括連携協定 / 新たにセンターが2つ誕生 / 地球学研究センターが公開講座 / JAいちかわから米寄贈、学食が割引に / 学生寮で「ひな祭り」開催

P9 [令和5年度学位授与式] 学生表彰

P10 就職・進路支援だより / コラム

CITへようこそ!

入学式スナップ



新入生を迎える満開の桜



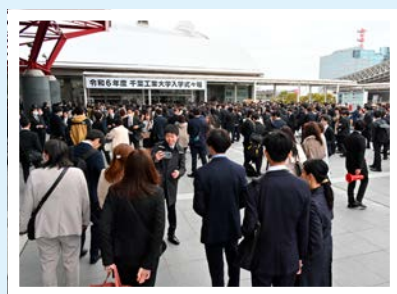
フォトスポットの前で



ガイダンスで友人もできました



期待を胸に記念写真



幕張メッセ・イベントホールの式場前



吹奏楽部による演奏

新入生インタビュー | CITでどんなことをしたいですか？

機械電子創成工学科
岡山 紘大さん

今日という日を迎えられてとてもうれしい。ロケットや自動車など最先端のものづくりについての知識を深めたい。2年間は寮生活です。学科の垣根を超えているいるな人と情報交換をして人間的にも成長したい。

未来ロボティクス学科
渡邊 峻雅さん

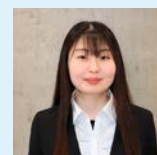
東日本大震災で千葉工業大学の災害支援ロボットが活躍したのを知って、自分もロボットづくりを学びたいと志望。初めての一人暮らし。学生生活に慣れたらサークルやアルバイトにもチャレンジしたい。

情報工学科
柳本 涼太さん

IT技術と人間の感覚をつなぐ認知科学について知識を深めたい。サークルはバスケの同好会に入りたいと思っています。大学生活を楽しみながらたくさん友人をつくること、4年で卒業することが目標です。

デジタル変革科学科
猪瀬 愛子さん

データサイエンティストをめざしています。基礎からしっかり学んで成長していきたい。女子が少ないので不安はありましたが、ガイダンスですでに友人ができたので、これからもっと楽しくなります。

建築学科
岩田 果歩さん

志望大学に入学できてうれしいですし、これから始まるキャンパスライフにワクワクしています。一級建築士をめざしているので、建築に関連する資格をたくさんとることが目標。将来は人のためになる建築物をつくりたい。

伊藤穰一 学長 式辞

技術者として世の中を変える存在になってほしい



かつて鎖国をしていた日本が開国し明治維新が起こったように、あるいは、戦後の焼け野原から復興したときのように、今、また日本は新しいデジタル技術の発展とともに、大きく変わろうとしています。そんな時代に皆さんは千葉工業大学に入学して、学んでいきます。劇的に世の中が変わろうとする中で、自分は何をどうやって学び、自分がその中でどう貢献できるということをぜひ考えてほしいと思います。

日本は少子高齢化で、皆さんのような若い人がどんどん少なくなっています。とりわけ技術者は圧倒的に足りません。日本の未

来には、技術を理解したリーダーが必要です。リーダーになりたい気持ちがある人はどんどん挑戦してほしいと思います。もちろん、さまざまな分野で活躍する技術者になっていく人もいるでしょう。そのときには、自分の領域だけ見るのではなく、世の中で何が起きているのかを考えて、技術者の目線で新しいことを提案し、世の中を変えられる技術者になってほしいと願います。日本の未来にとって皆さんは極めて重要な存在です。新入生の皆さまが千葉工業大学でよく学び、よき友と出会い、よき技術者となることを祈念して、私の式辞といたします。

瀬戸熊修 理事長 祝辞

「本当にそうなのか？」と疑問を持つ姿勢で学んでほしい



千葉工業大学は、現在、5学部17学科、5研究科15専攻、学生数は1万人を超えています。新入生諸君がそれぞれの学部・学科で学んだ知識や技術が、将来の職業と直結します。それだけに、自らの将来像をいかに思い描きながら研究に取り組んでいくか、その心構えがとても大切になります。

現代は先行きが不透明の時代といわれ、将来の予測が大変難しい状況であります。予測困難な事象が次々と起こり、これらを克服していくためには、AIや最先端技術の力がますます必要不可欠となっています。AIとの共存社会では、最先端技術の修得と

人間にしかできない「考え抜く力」を高めて、「めげず・あきらめずに、常に挑戦して失敗を重ねながらも勝ちパターンを見つけていく力」が必要と考えます。

本日から大学生活が始まります。授業などで知識の修得も大事ですが、知識偏重や情報に対して受け身になり過ぎないように、「本当にそうなのか？」と疑問を持つ姿勢や、学んだ知識をそのままにせず、これからの学修や研究活動などで活用する習慣を身につけていてください。諸君の夢がいずれ大きく花開くことを心より祈念し、私の祝辞といたします。

在学生代表歓迎の辞・
新入生代表宣誓AIや建築を学び、
地元北陸の復興に携わりたい

在学生を代表して登壇した田名網真夢さん(情報工学科4年)は祝辞で「部活動などの団体に所属することで多くの親しい友人ができると思います。また、夏休みと春休みと年2回の長期休暇には、資格の取得、長期アルバイト、海外渡航など普段できないことにチャレンジしてほしい」と大学生活をより充実させるためのアドバイスを述べました。これに続いて、新入生を代表して盛田琉生さん(建築学科)が宣誓し、「元日に起こった能登半島地震では、私の出身地、北陸は甚大な被害を受けました。当たり前前に過ごしていた日々が一瞬にして失われてしまう恐怖と共に、人の絆や困難に立ち向かう強さ、復興の意思を強く持つことの重要性を理解する機会になりました。今後、AIや建築についての知識を深め、将来は地元北陸の復興と再建に携わりたいです」と抱負を語りました。

情報工学科4年
田名網 真夢さん建築学科
盛田 琉生さん伊藤穰一 学長
講演「変革論」新しい素材とプラットフォームを理解し、
今までにないものを生み出す

世の中を変革するためには、新しい科学技術と素材を理解することが大事です。建築に例えると、木と紙しかない時代には平屋しかつくれませんが、鉄やガラス、コンクリートができるようになると高層ビルをつくれます。素材の感覚がわからないと、コンクリートで平屋を建ててしまうことになります。今のデジタル社会には暗号技術、AI、ゲノム解析といった新しい素材がたくさんあります。暗号通貨、オープンソース、ピアラーニングといった新しいプラットフォームも出てきています。この両方をしっかり理解することで、今までとは根本的に違うものを世の中に提案できるはず。それが本当の社会変革につながるのです。一緒に日本を変革していきましょう。



研究成果・受賞



左から長谷川さん、和泉さん、松井さん、飯塚さん

ちばぎんアイデア賞を受賞

知能メディア工学科 松井 夏美さん/長谷川 琉久さん/飯塚 直哉さん/和泉 沙弥さん [森 信一郎 研究室]

千葉銀行と横浜銀行が地域経済の担い手となる学生たちに募集した「ちばぎん・はまぎん学生ビジコン2023」で、知能メディア工学科3年(受賞当時)の松井夏美さん、長谷川琉久さん、飯塚直哉さん、和泉沙弥さんが共同で提案した「残葉調整における『残葉優先推定AI』構築の提案」が、ちばぎんアイデア賞に決まり、2月15日、千葉銀行本店(千葉市中央区)で表彰されました。12回目となる今回は過去最多の107組が応募。

松井さんらは、日本の残葉問題に残葉の有効活用をする対策である残葉調整において薬剤師の工数と薬剤の優先度を確率的数理最適化を用いることでバランスを取ることでできるモデルを作成。「ニッチだが重要な部分に着目した面白い取り組み」と、最終選考審査員から講評をうけました。

書類審査およびプレゼンテーション審査を経て、研究は試行錯誤の繰り返しで苦難の連続。それでもメンバーが目標に向かい、それぞれにアイデアを出し合い、議論を重ねた結果、議題解決が導き出されると4人は異口同音に喜びを語りました。



情報処理学会で 優秀発表賞を受賞

知能メディア工学科 松田 樹希さん [森 信一郎 研究室]

情報処理学会第39回コンシューマー・デバイス&システム研究発表会で、1月22日、知能メディア工学科4年(受賞当時)の松田樹希さんが優秀発表賞を受賞しました。松田さんは「管理農業普及における営農指導の効率化に関する研究」を発表。不足する営農指導員の指導を効率化を図るため、「注力して指導すべき農家グループ」をUX デザイン手法から作成されたアンケートを用いて抽出し、そこに営農指導員のリソースを集中させることを提案。松田さんは、「森先生の熱心な指導と先輩方の助言、支え合った研究同期のおかげ。また、UXデザイン手法、人工知能要素を含んだ『知能メディア』な研究発表が評価され嬉しい」と受賞の喜びを語りました。



千葉県加工技術研究会で 優秀講演賞を受賞

機械工学科 牧野 慎吾さん [瀧野 日出雄 研究室]

千葉県加工技術研究会第18回大学等委員による研究事例発表で、3月1日、機械工学科4年(受賞当時)の牧野慎吾さんが優秀講演賞を受賞しました。発表テーマは「渦電流センサによる塗膜下腐食の評価」。昨年、鋼橋などのインフラ構造物の老朽化が社会問題となり、その原因の一つは塗膜下腐食と言われています。現在、目視での検査は行われているものの、定量的な検査が難しく、本研究では渦電流センサを用いて非破壊で塗膜下腐食を定量的に検査する方法を検討。資料作成の際には、アニメーションなどを用い、知識が全くない方々でも理解できるよう工夫しました。牧野さんは、瀧野先生はじめ、先輩や共同研究者のおかげと受賞の喜びを語りました。



技術と社会・倫理(SITE) 研究専門委員会学術奨励賞を受賞

知能メディア工学専攻 渡久地 伸之介さん [宮田 高道 研究室]

知能メディア工学専攻修士2年(受賞時)の渡久地伸之介さんは、3月14日、電子情報通信学会技術と社会・倫理研究会より学術奨励賞を受賞しました。研究テーマは、画像内にその画像とは全く関係のない秘匿メッセージを元画像と見分けがつかないように埋め込む技術の研究提案。渡久地さんは受賞の報に、指導教員の宮田高道教授や研究室の皆様のおかげと感謝を述べ、大学・大学院での学びと経験をいかして社会に貢献していきたいと抱負を語りました。

※SITE研究会は、情報通信や工学一般に関する倫理問題を中心として、情報リテラシー、知的財産権、情報セキュリティなどの講演発表・意見交換を行う組織。



情報処理学会にて 学生奨励賞を受賞

知能メディア工学専攻 山之内七穂さん [今野 将 研究室]

3月15日に行われた情報処理学会第86回全国大会において、知能メディア工学専攻修士2年(受賞時)の山之内七穂さんが学生奨励賞を受賞しました。研究テーマに掲げたのは「思考過程の発話に対する聞き手の影響」。あるアイデアを社会に実装しようとするとき、そのアイデアについて試行錯誤しながら考える際に自らの思考を客観視し再解釈するためにスケッチや発話によって外在化することに着目。そこで創造的課題において聞き手の存在・動作を要因とした思考過程の発話および成果物説明に対する主観的評価の影響を実験的に検討しました。山之内さんは、実験デザインがおもしろいと評価されたことがうれしかったと喜びを語りました。



先端材料工学科の 西村美咲さんがダブル受賞

先端材料工学科 西村 美咲 さん [小澤 俊平 研究室]

先端材料工学科4年(受賞当時)の西村美咲さんが3月14日に第187回日本鉄鋼協会学生ポスターセッション優秀賞を、3月22日に第32回日本鉄鋼協会・日本金属学会奨励賞を受賞しました。研究テーマ「Fe系合金融体の表面張力の推算と実測」では、組成や環境条件によって複雑に変化する多元系合金融体の表面張力を、純金属融体の表面張力を基にして正確に推算するモデルの構築に挑戦。この研究は、溶接や積層造形(3Dプリンティング)などの高温融体プロセスの最適化や未知現象の解明に大きく寄与することが期待されます。西村さんは「指導教員の小澤先生、共同研究者の栗林先生(附属研究所)、そして多くの先輩方の支援と励ましのおかげです」と感謝の意を述べました。



fuRo 保坂研究員に ひまわりベンチャー育成基金

未来ロボット技術研究センター(fuRo)の保坂謙史郎・客員研究員が代表を務めるロボット開発(株)ワークロボティクスが、千葉県内のベンチャー企業を支援する公益財団法人「ひまわりベンチャー育成基金」の2023年度下期・助成金交付先に選ばれ、2月7日、交付式が行われました。ワークロボティクス社は本学から技術移転を受けた狭隘空間点検ロボットの改良などに取り組んでおり、天井裏や高速道路の裏面吸音板、歩道橋など点検困難とされていた場所の点検を可能にするほか、一部解体や足場構築も不要になることで大幅な点検コスト削減につながると見込まれ、将来は全国の自治体が管理する歩道橋の点検など、市場規模の大幅な拡大に期待が寄せられています。



瀧野日出雄教授に功労賞 精密工学会

機械工学科の瀧野日出雄教授が3月13日に行われた精密工学会創立90周年記念式典において、功労賞を受賞しました。瀧野教授は、会誌編集委員や事業部企画委員会委員、広報・情報部会長、理事を歴任するなど、長年にわたり同会の発展、運営に貢献されてきました。今回の表彰を瀧野教授は、「精密工学に関する学術や産業の発展に微力ながら貢献したことが評価され、身に余る思いです。ご協力頂いた方々にも深く感謝いたします。今後、精密工学会がさらに発展していくことを願っています」と喜びを語りました。
※精密工学会は、精密工学に関する学術・技術の振興をはかり、研究者・技術者の質的向上と科学技術情報の発信により、社会の発展に寄与することを目的に設立された公益法人。

信川教授がアルツハイマー病における 神経ネットワークの活動異常を捉えることに成功



情報工学科 信川 創 教授

情報工学科の信川創教授らの研究グループが、代表的な認知症であるアルツハイマー病の神経ネットワークにおける活動異常をとらえることに成功しました。同研究は脳の神経ネットワークの変質と認知機能低下が密接に関連していることを明らかにしたもので、研究成果は今年の1月2日に英科学雑誌「Scientific Reports」で発表されました。

信川教授らの研究グループは、単一の要素である神経細胞が1000億個以上も相互に結合している脳の領野間で活動が先行または後退する現象を定量化することで、神経ネットワークにおける情報の発信・受信状態を数種類のパターン(瞬時周波数に基づくマイクロステート・IF マイクロステート)に分類できることを発見。IF マイクロステートの時間的変遷を解析し、神経ネットワーク変質と認知機能低下が密接に関連していることを突き止めたということです。

神経ネットワークは、神経活動の各領野での同期や情報流によって定義された機能的なネットワークで、その変動は「神経ネットワークダイナミクス」と呼ばれ、信川教授らは、認知

症は脳の領野間の相互作用が病態の進行によって減少し、神経ネットワークのダイナミクスによって直接的に現れるとの仮説を立てて研究してきたといい、IF マイクロステート解析をアルツハイマー病の16人、健常者18人の脳波データに対して適用し、動的特性を評価した結果、アルツハイマー病では後頭先行状態の出現頻度が有意に少ないことなどが明らかになったということです。

今後は、脳波の瞬時周波数によって特徴づけられるマイクロステートを新たに開発することによって、従来の問診を主とする診断に加え、簡便な脳波を利用した早期診断やケアを補助するバイオマーカーの実現につながると期待されています。

※信川教授らの研究グループは、金沢大学子どものこころの発達研究センターの池田尊司准教授、金沢大学医薬保健研究域医学系の菊池充教授、金沢大学子どものこころの発達研究センター協力研究員の髙橋哲也氏で構成されています。

超小型衛星「KASHIWA」が宇宙空間へ



放出成功時の中継の様子 (JAXA公式YouTubeチャンネルより)

高度技術者育成プログラムの一環として、本学学生が開発してきた超小型衛星「KASHIWA」が搭載されたアメリカスペースX社のFalcon9ロケット30号機が3月22日、打ち上げに成功しました。その後、4月11日(日本時間)、国際宇宙ステーションから放出され、KASHIWAの宇宙への旅立ちを見守ろうと津田沼キャンパスでパブリックビューイングが開催されました。KASHIWAは、2022年1月に当時の学部2年生が開発に着手した10cm×



打ち上げ初号機となった「KASHIWA」(左)と同プログラムに参加している学生たち(右)

10cm×10cmの1Uキューブサットといわれる超小型衛星で、同プログラムでは2号機。今回の衛星では衛星基本機能の宇宙空間での動作確認とともに、撮影した画像1枚を地球上で画像に復元することを最低成功条件として設定。今後数ヶ月の間、ステレオカメラによる測距、夜間光等を対象とした地球観測、APRSによる一般アマチュア無線家へのメッセージ送受信、地磁気データの聴覚情報への変換にも挑戦します。

EVENT

イベント

fuRoが 新たな電動モビリティを発表



移動インフラの概念に新たな変革と成長をもたらすモビリティをめざす

本学の未来ロボット技術研究センター (fuRo) の古田貴之所長は4月3日、(株)RDSと共同創業したスタートアップ「ROIDZ TECH」の電動3輪モビリティ「Raptor」(ラプター)を報道公開しました。将来的にはAIによる自動速度制限や安全機能の実装も予定し、電動モビリティのプラットフォームをめざすとし、古田所長は、「用途や乗り方に応じて、みんながつけることができる文化にしたい。だから、プラットフォーム型と呼んでいる」と説明。超高齢社会の到来を念頭に「高齢者も動き回ることができる環境をつくりたい。社会に接続するデバイスになってほしい」との抱負を語りました。

いちかわ芸術祭で CIT Brainsがデモンストレーション

千葉市県政150周年記念イベントの一環として開催された近現代産業とアートをテーマにしたいちかわ芸術祭。本学ではデザイン学科の石塚明夫教授と長尾徹教授からの提案を受け、芸術祭参加を通して人々の科学への関心を高めてもらうことを目的に参加。1月16日～3月10日の期間中の2日間、本学のCIT Brainsとして4名のメンバーが、2022年の世界大会で優勝したロボット「SUSTAINA-OP™」の動態デモンストレーションを行いました。縮小サイズのサッカーフィールドを自在に動き回るロボットの動きに来場者は興味深く見入っていました。また、千葉県立産業科学館の常設展示場では、「SUSTAINA-OP™」の展示と2023年開催のRoboCup2023フランスの試合映像の放映も行われました。



15クラブの活躍を表彰 祝勝・奨励会



4年ぶりの開催に笑顔で談笑する表彰者たち



戦績を讃える瀬戸熊理事長

各種競技会や学内外の行事で活躍した体育会、文化会のサークルを表彰する第41回祝勝・奨励会が3月7日、津田沼校舎2号館3階大教室で開かれました。表彰されたのは、令和5年度に素晴らしい成績を残した体育会8、文化会7の計15クラブで、表彰によりその栄誉をたたえました。祝勝・奨励会は、本学の恒例行事として長く定着していましたが、コロナの影響で今回は4年ぶりの開催となりました。瀬戸熊修理事長は、苦難の時代ながらもたゆまぬ努力を続ける学生たちに向け、「チャレンジ精神を忘れずに!」と言葉を贈り、本学の学生たちのますますの活躍に期待を寄せました。

春のオープンキャンパスに1619人来場



全体説明会



工作センター見学



在学生に聞いてみよう



進学相談コーナー



デジタル変革科学科の説明コーナー



生命科学科の説明コーナー

令和5年度最後のオープンキャンパスが津田沼キャンパスで3月30日に開催されました。メインイベントとなる学部学科全体説明会は、講義室を追加して実施するほどの大盛況。各学科の説明会ブースにも、特色をいかした体験コーナーや展示がずらりと並び、会場は終始にぎわっていました。また、進学相談コーナー、在学生に聞いてみようのコーナーでは保護者らが熱心に質問。おりしも本学のKASHIWAを搭載したロケットの打ち上げが成功したニュースに、受験生やその保護者の関心度は例年に増して高く、高度技術者育成プログラムに感心を寄せる生徒たちが真剣な面持ちで耳を傾けていました。来場した受験生・保護者からは「大学生から実際に話を聞いて安心した」などといった声が多く寄せられました。

八千代松陰中学校・高等学校 と包括連携協定



3月13日、本学と八千代松陰中学・高等学校（千葉県八千代市／校長：櫻井丸）は、「包括的な連携に関する協定」を締結しました。八千代松陰中学・高等学校は、1981年に中高一貫教育をスタート。広大なキャンパスを持つ、県下有数の教育施設を備えた文武両道の学校です。

【連携事項】

- ①教育、研究および文化の発展に関すること。
- ②進路、キャリア教育に関すること。
- ③入学者選抜に関すること。
- ④施設提供に関すること。
- ⑤その他前条の目的を達成するために必要と認めること。

新たにセンターが 2つ誕生

天文学研究センター

次世代ペプチド
開発研究センター

4月1日、本学では新たに「天文学研究センター」と「次世代ペプチド開発研究センター」を新設しました。「天文学研究センター」には、前国立天文台長の常田佐久氏が所長として就任。わが国の宇宙開発の今後の動きを総合的に捉えて、惑星探査研究センターと連携し国立天文台やJAXA、宇宙開発企業と協力して、学術、観測機器・衛星の開発、人材育成、わが国の宇宙政策の立案等に広く貢献していきます。「次世代ペプチド開発研究センター」には、中部大学ペプチド研究センター長の山本尚氏を所長として迎え、現在天然物のペプチドに頼っているペプチド創薬において、自動合成技術を活用することで病態の治癒に最適なペプチドを設計して、合成し、創薬の課題解決と発展に寄与することを目標としています。

旭市と 包括連携協定



3月18日、本学と旭市は「包括的な連携に関する協定」を締結しました。今後一層関係性を強めて、地域の発展と人材の育成に向けて共に積極的に取り組んでいきます。

【連携事項】

- ①まちづくりに関すること。
- ②地域経済活性化に関すること。
- ③教育、文化及びスポーツの振興に関すること。
- ④人材育成に関すること。
- ⑤情報通信技術の活用に関すること。
- ⑥災害分野に関すること。
- ⑦その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

地球学研究センターが 公開講座



3月16日、東京スカイツリータウンキャンパスで、地球学研究センターとして初めての公開講座が開催されました。当日は、同センターの下釜和也研究員が研究フィールドのひとつである1万2千年前のギョベクリ・テベ遺跡をはじめとする南東トルコで栄えた巨石文化を構成する遺跡について解説。さらに同センターによる発掘調査の成果について話しました。ギョベクリ・テベ遺跡の巨石建造物群は、世界最古の神殿跡と考えられ、人類の宗教や文化の原点だと言われていいます。約80名の来場者は熱心に聴講し、「今後も同様の公開講座を開催して欲しい」といった感想を寄せました。

JAいちかわから米寄贈 学食が割引に



JAいちかわ（今野博之・代表理事組合長）から3月19日、船橋市で生産されたお米「こしひかり」1トンが本学に寄贈されました。同農協からは、世界がコロナの脅威にさらされていた2020年7月にも「コロナ禍で大変な思いをしている学生を元気づけるために役立ててほしい」との申し出があり、お米が寄贈されました。今回は第2弾ということになります。善意のお米は、両キャンパスの学生食堂CITサービスで利用し、4月22～26日をサービス期間として、ご飯を含む一部メニューを50円引きで提供。食べ盛りの学生たちは地元産の心のこもったお米に舌鼓。大いに英気を養いました。

学生寮で 「ひな祭り」開催



親元を離れた学生たちのひとときの安らぎとなればとの思いから始まった学生委員会主催による「ひな祭り交流会」が3月26日、新習志野キャンパスの椿寮（女子寮）で開催されました。本学の恒例行事のひとつに数えられるようになったこのイベントには、瀬戸熊理事長や学生委員会の教職員たちも参加し、伝統的な華やかさに包まれた楽しい会が繰り広げられました。日本古来の貴族文化を彷彿とさせる雛人形の艶やかで楚々とした表情にため息を漏らす学生もいるなど、心豊かな交流会の雰囲気は格別。寮生たちは思い思いに交流会の様子や雛人形をスマホで撮影し、家族や友人たちに送るなどしていました。

令和5年度

学位記授与式



2483人に学位記授与 それぞれの想いを胸に卒業

令和5年度の学位記授与式が3月22日、幕張メッセ・イベントホールで行われました。今年、新たな門出を迎えたのは学士2078人、修士398人、博士7人の計2483人。学部卒業生5学部を代表して社会システム科学部金融・経営リスク科学科の北川樹さん、大学院博士前期課程・修士課程5研究科を代表して先進工学研究科知能メディア工学専攻の浅岡航平さん、大学院博士課程工学研究科を代表して清宮優作さんがそれぞれ登壇し、学位記を授与されました。

続いて学生表彰が行われ、在学中の活動で特に顕著な功績を挙げた理事長賞に機械工学科の関口智礼さん、また、成績が優秀で学業と課外活動に秀でた学長賞にプロジェクトマネジメント学科の長廣悠真さん、機械電子創成工学専攻の竹井慎登さんが選ばれたほか、優秀賞、PPA会長賞、同窓会会長賞、千葉県知事賞と計24人が表彰されました。

伊藤穰一学長による式辞、瀬戸熊修理事長の祝辞に続き、在学生代表の梶岡真菜美さん(機電3年)が送辞を、卒業生代表の赤羽尋翔さん(経情)が答辞を述べました。



卒業生代表として答辞を述べる赤羽 尋翔さん

学生表彰者



理事長賞

関口 智礼【機械】

学長賞

長廣 悠真【PM】

竹井 慎登【機電】

優秀賞

木下 駿祐【機械】	有永 茉莉【機電】	西村 美咲【材料】
山本 大遥【電電】	古賀 耀【通信】	鈴木 元規【応化】
鎌田 こころ【建築】	松田 拓也【都市】	三村 亮太郎【牙科】
馬頭 莉子【未口】	太野 有紗【生命】	小島 伸啓【知能】
吉岡 シャーン圭允【情報】		涌井 大空【NS】
千野根 琉成【経情】	北川 樹【金融】	

同窓会会長賞

岡垣 昇汰【生命】

田中 虎斗【知能】

PPA会長賞

滝花 将吾【NS】

陳 志恒【PM】

野田 里穂【PM】

【機械】機械工学科 / 【機電】機械電子創成工学科 / 【材料】先端材料工学科 / 【電電】電気電子工学科 / 【通信】情報通信システム工学科 / 【応化】応用化学科 / 【建築】建築学科 / 【都市】都市環境工学科 / 【牙科】デザイン科学科 / 【未口】未来ロボティクス学科 / 【生命】生命科学科 / 【知能】知能メディア工学科 / 【情報】情報工学科 / 【NS】情報ネットワーク学科 / 【経情】経営情報科学科 / 【PM】プロジェクトマネジメント学科 / 【金融】金融・経営リスク科学科

理事長賞

機械工学科 関口 智礼 さん



KASHIWAを乗せたロケットの打ち上げ成功が偶然にも卒業式と重なり、目標としていた光景を見られたことは感慨深いです。大学では、日々淡々とやりたいこと、やらなければならないことをやっていくだけで、それが今回の表彰という形になったのだと思います。今後もこの受賞に恥じないように精進したいです。

学長賞

プロジェクトマネジメント学科 長廣 悠真 さん



自分たちの代はコロナ禍で入学式もなく、高校生の気持ちが抜けきれないままでのスタートでした。それでもいるる先先生方のサポートがあったおかげで、今回の受賞につながったのだと思います。よさこいソーラン風神部の仲間たちにも感謝したいです。今後、社会に出てからも千葉工業大学に良い報告ができるよう頑張ります。

機械電子創成工学専攻 竹井 慎登 さん



とてもうれしいです。研究室の言先、外部の研究所の先生方、学会でお会いした方々など多くの方々に助けられて賞をいただくことができたのだと思います。個人力だけでは成し得なかったことであり、皆さんを代表しての受賞だと思っています。あらためて感謝の言葉をお伝えします。ありがとうございます。

就職・進路に役立つ情報をお届けします

就職・進路支援だより



積極的に各種説明会へ参加しよう

4年生・修士2年生向け支援

この時期、各企業の採用活動が活発になっています。複数企業の選考を受けている学生も多いのではないのでしょうか。5月以降も、千葉工大生積極採用の企業が集まる「学内合同企業説明会」を実施します。例年、学内説明会に参加し、内定に繋がった先輩がたくさんいます。活動中または未活動で企業を探している学生には、特に積極的な参加をお勧めします。過去に参加した学生からは、「様々な業界の企業が多く参加しており、業界研究や企業探しに困った際は是非参加をお勧めします」、「参加企業から、千葉工大生を積極的に採用したいと感じられた。学内説明会で話すことで、見通しと就活への実感を持って」等の感想が挙がっています。現在、多くの企業の求人が寄せられていますので、特に未内定やまだ十分に活動が出来ていない学生も、周りと比較して不安になったり諦めてしまったりする前に、まずは学科の先生方や就職・進路支援部に相談しましょう。また、就職システムからの個別面談予約や、当日の相談枠もありますので、お気軽に就職・進路支援部までご相談ください。

学内合同企業説明会(5月開催分)

日程	参加予定企業の一部	開催方法
5月21日(火)	日本電設工業、高千穂化学工業、大阪富士工業、古河電気工業、東京冷機工業、マルニックス、スターツアムニティ、ダイドー、寺崎電気産業 他	対
5月22日(水)	コスメテックスローランド、ルピコン、島津アクセス、鉦研工業、日立産機ドライブ・ソリューションズ、富士興業 他	対
5月23日(木)	ジェイアール東海情報システム、ウチダエスコ、NTTデータNJK、第一コンピュータリソース、NS・コンピュータサービス、サンワコムシスエンジニアリング、旭情報サービス 他	OL

対象：学部4年生、修士2年生

予約：就職システムの支援行事予約

★午前・午後、各回10社程度が参加予定。

参加企業詳細や実施場所・時間等は、就職システム及びメール配信をご確認ください。

★リクルートスーツ着用(推奨)※私服可

★開催方法：対⇒学内対面/OL⇒オンライン

TOPIC

規格外の梨をグミに
パッケージは本学学生のデザイン

JAいちかわは、形が悪く出荷できず規格外となった梨を活用した「なしグミ」を2月に発売しました。昨年7月に、県産の「なし」のパッケージに、本学の吉田朗人さん(デザイン科学専攻1年・当時)のデザインを採用。同様のデザインが今回の「なしグミ」にも利用されています。学位記授与式や入学式でお披露目(学生らにプレゼント)し、今後は、CITサービス(購買)でも取り扱う予定です。

同窓会



満開の桜をもって新しい年度を迎えました。長期休業中の静けさもよいですが、活気にあふれるキャンパスの方がやはり大学らしいように感じます。

建築学科では、講義で実物を扱えないために現地を訪ねて実際の建築に見てふれることを推奨しています。新たな試みとして、見学時に撮影した写真をシェアして長期休業中の学生相互の学びを「見える化」してみたところ、個人差はありつつも全国さらには海外に及んで広く見学に励んでおり、大いに感心し、ひいては後輩たちが頼もしく映りました。

本学での教員生活も11年目に入りました。その時間の重みは感じつつも、振り返ると10年は短く、教員としても研究者としてもまだまだ精進せねばならないと思ってやみません。この春に入学された新入生のみなさんには、とても長いように映ると思いますが、4年間の学生生活は実は短い。日々努めて、本学でかけがえのない経験と学びを得て、実り多い学生生活を送ってもらえることを期待します。

建築学科 藤木 竜也

四季雑感



学生の皆さん、ご入学・ご進級おめでとうございます。風の強い日が続いたせいか、今年は桜をゆっくり見る機会がないままに葉桜の季節を迎えてしまいました。ついこの間4年生になったと思った面々が一斉に卒業し、新たな学生たちが入学してくるこの季節。確実に1歳年を取る私に対し、迎え入れる学生たちはいつも18歳から20代前半で変わらないことに気づかされます。昔、恩師が一度だけ「学生との距離はどんどん離れていく」と寂しげにぼやいていたのを思い出しました。確かにどこかおいてけぼりにされた気分ですが、その一方で、教えた学生たちが社会に出て行く後ろ姿を見送ることは、私にとっては大きな喜びでもあります。また、「教えた」と書きましたが、教員というのは彼らを介して新しいことや自分の関心外のことを一緒に学んでいるようなところもあります。そう考えれば、得るものも多かったです。1年と思いましたが、時が足早に過ぎ去ったことには変わりありません。「少年老い易く学成り難し」。自戒の意を込めて新入生に伝えたいと思います。

知能メディア工学科 小早川 真衣子

編集だより



暖かかったり、寒かったり、なかなか春らしい陽気が安定しなかった今年の4月。心配だった桜も「待ってました!」と、新入生を迎え、キャンパスは初々しい笑顔に包まれていた。

新入生インタビューのため、幕張メッセで色々な学生や保護者の方々と話をする機会に恵まれた。保護者の皆様と喜びを分かち合うとともに、これから過ごす学生生活において、期待を寄せている、という嬉しい声を聞けて、私たち教職員もその一助となれるよう、一層の努力をしなければと背筋がのびる思いだ。

さて、1996年以来お届けした印刷紙面の学報「NewsCIT」が、この4月号からweb掲載へ移行し、デザインも一新され新たに生まれ変わった。文章の調子がこれまでとは一味違うため、編集だよりを書いているそばから、なんだかソワソワ。ちぐはぐな感じが否めない。

新入生のみなさんと同様、これから始まる新しい挑戦と冒険の日々を、楽しんで行けたらと思う。しばらくは、皆様のご理解とご協力を、どうぞ、よろしくお願ひします。

入試広報部 大橋 慶子